総務・政策・企業常任委員会　　資料３
平成29年（2017年）　5月18日（木）
総合政策部 新駅問題・特定ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対策室

米原駅東口県有地の利活用について

１．利活用検討の経過

米原駅東口県有地　約2.1ha

H13.3	日本鉄道建設公団（旧国鉄清算事業団）から滋賀県土地開発公社が先行取得
H13	米原駅東部土地区画整理事業開始
H15	鉛汚染および石炭殻の存在が判明 県（環境管理課）から公社および米原町に土壌汚染対策に関する文書指示
H19	米原市が行うプロポーザルへの参加を決定
H20	県有地造成工事の進捗状況を踏まえ、市プロポーザルへの参加を見送り 市が単独でプロポーザルを実施（リーマンショックの影響により中止）
H24	市が単独で再度プロポーザルを実施（「該当者なし」） 汚染土壌および石炭殻混じり土の掘削除去、埋戻し工事終了
H25	土地区画整理事業による造成工事終了 以降、県と市が共同で銀行等に対し企業意向把握のための情報提供等開始
H26	汚染土壌入替後２年間継続して基準値未満であったため、地下水モニタリング調査を終了
H27	利活用検討基本方針を決定 土地区画整理事業による換地処分完了 利活用検討調査を実施

２．土壌汚染調査の結果

（１）調査の経緯

- 3,000㎡以上の土地の形質変更を行う場合には、土壌汚染対策法第４条に基づき、県（環境事務所）への届出が必要であるが、届出を受けた県（環境事務所）は、法令に定められた「汚染のおそれの土地基準」に該当するか判断し、必要に応じて土地の所有者等に対して調査命令を発出する。
- 今後、土地の利活用が具体化し、土地の形質変更届を行った際に調査命令を受けることがないよう万全を期すため、あらかじめ必要と考えられる土壌汚染調査を行った。

（２）調査の概要

［調査内容］

区域ア　近江鉄道軌道敷や一般住宅等であった区域（用地のほぼ東半分）

当該区域は土地区画整理事業により換地を受けた区域である。一般に、以前の電車のパンタグラフのすり板には鉛が含有されており、鉛の使用履歴があったと判定されることや、周辺の聞き取り調査の結果、自然由来と思われるヒ素の存在が推測されることから、鉛とヒ素を対象に土壌調査を行った。

区域イ　旧国鉄用地で、以前に土壌汚染対策を実施した区域（用地のほぼ西半分）

当該区域では鉛とヒ素が基準値を超えて検出されていたが、過年度の調査結果に追加して、連続２深度で基準に適合しているか確認した。

また、周辺よりも深い位置で基準不適合であった単位区画がある場合に、隣接する単位区画も同じ深度で基準に適合しているか確認するための土壌調査を行った。

区域ウ　用地の南西端の水路であった区域

旧国鉄清算事業団から購入した区域でなかった（水路であった）ため、過年度の調査では対象外としていた区域であるが、平成14～15年に施工された水路改修工事により、ボックスカルバートを埋設して水路を暗渠にした際、現地発生土で埋戻しがされていた。このため、旧国鉄用地と同様に汚染の可能性があることから、区域イと同じく鉛、ヒ素について調査を行った。

［調査期間］　平成28年10月から平成29年2月

（3）調査の結果

次のとおり、鉛（含有量）について6検体（5地点）で基準値を超過、ヒ素（溶出量）については15検体（11地点）で基準値を超過した。

項目		地点数	検体数	検出数	基準超過数	検出最高値	指定基準
鉛	含有量	90	153	147	6	330mg/kg	150mg/kg
	溶出量	87	147	17	0	0.003mg/L	0.01mg/L
ヒ素	含有量	16	70	3	0	5mg/kg	150mg/kg
	溶出量	19	111	101	15	0.038mg/L	0.01mg/L

現時点では次のとおり推測しているところ（最終的には、調査結果を整理したうえで、県環境事務所の判断を得る必要がある。）。

○　鉛については、基準値を超えて検出されたのは区域ウ（水路であった区域）のみであった。

含有量では基準値を超過しているが、溶出量では基準値を下回っていることや、現在は、区画整理事業によって、汚染されていない土で覆土されていることから、人が直接摂取する経路がなく、直ちに周辺住民の健康への影響はないと考えられる。

○　ヒ素については、区域ア、イ、ウいずれの区域からも基準値を超えて検出されたが、現時点では、当該用地においてヒ素が使用されていた履歴は確認されておらず、周辺の井戸水調査でも自然由来と考えられるヒ素が検出されていることから、自然由来による汚染の可能性が考えられる。

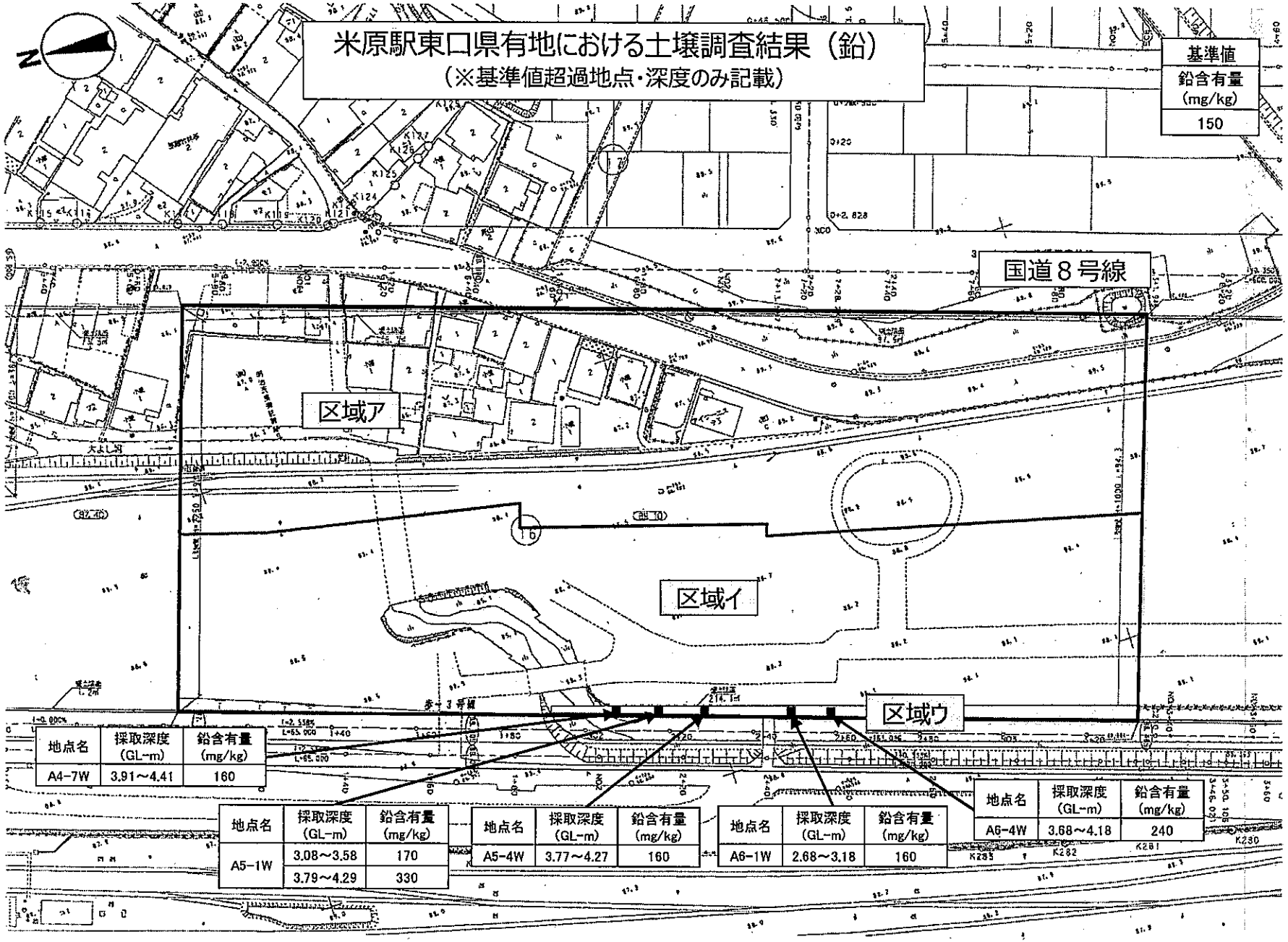
なお、下流域の地下水は自然由来と考えられるヒ素の検出地域であり、以前から井戸水を飲用しないよう周知されている。

（4）今後の対応

本調査結果を踏まえ、土壌汚染対策法等に沿って適正な措置を講じるとともに、隣接する米原市有地との一体的利用も視野に入れ、今後の利活用に向けたスケジュール等を考慮した最適な方策を検討していく。

米原駅東口県有地における土壌調査結果（鉛）

（※基準値超過地点・深度のみ記載）



基準値
鉛含有量 (mg/kg)
150

地点名	採取深度 (GL-m)	鉛含有量 (mg/kg)
A4-7W	3.91～4.41	160

地点名	採取深度 (GL-m)	鉛含有量 (mg/kg)
A5-1W	3.08～3.58	170
	3.79～4.29	330

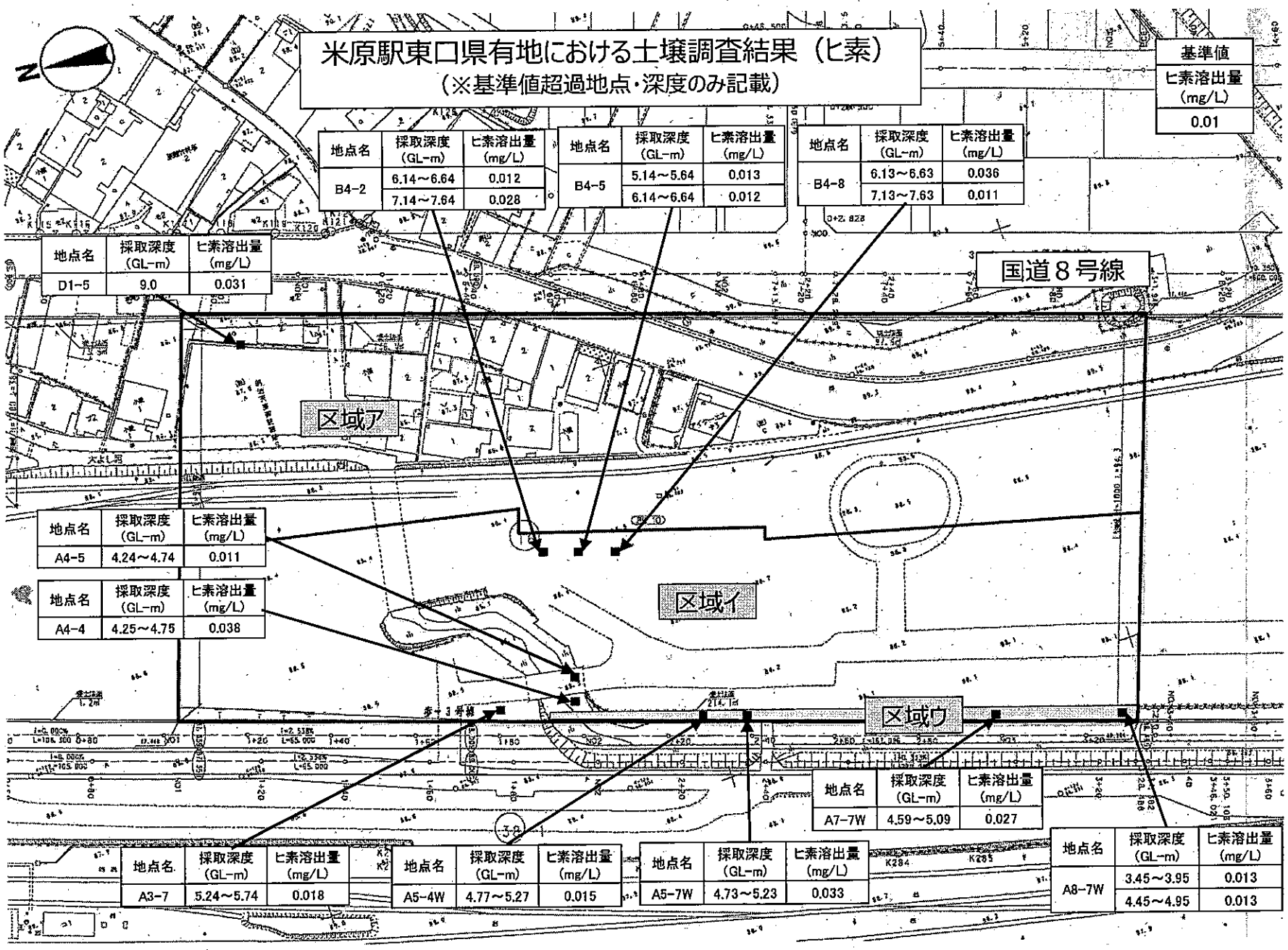
地点名	採取深度 (GL-m)	鉛含有量 (mg/kg)
A5-4W	3.77～4.27	160

地点名	採取深度 (GL-m)	鉛含有量 (mg/kg)
A6-1W	2.68～3.18	160

地点名	採取深度 (GL-m)	鉛含有量 (mg/kg)
A6-4W	3.68～4.18	240

米原駅東口県有地における土壌調査結果（ヒ素）

（※基準値超過地点・深度のみ記載）



基準値
ヒ素溶出量（mg/L）
0.01

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
B4-2	6.14～6.64	0.012
	7.14～7.64	0.028

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
B4-5	5.14～5.64	0.013
	6.14～6.64	0.012

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
B4-8	6.13～6.63	0.036
	7.13～7.63	0.011

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
D1-5	9.0	0.031

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
A4-5	4.24～4.74	0.011

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
A4-4	4.25～4.75	0.038

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
A7-7W	4.59～5.09	0.027

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
A3-7	5.24～5.74	0.018

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
A5-4W	4.77～5.27	0.015

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
A5-7W	4.73～5.23	0.033

地点名	採取深度（GL-m）	ヒ素溶出量（mg/L）
A8-7W	3.45～3.95	0.013
	4.45～4.95	0.013